

稲美町教育委員会議事録

1 開催日時 令和5年8月4日(金) 開会 15時00分
閉会 17時41分

2 開催場所 稲美町役場303会議室

3 会議に付した事項

日程第1 諸報告

(1) 行事・経過報告について

(2) 8月・9月の行事予定について

日程第2 議案

議案第8号 令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書採択について

日程第3 その他

(1) 第1回図書館協議会の報告について

(2) 総務福祉文教常任委員会の報告について(総務福祉文教常任委員会資料参照)

4 出席委員

教 育 長	北 谷 錦 也
委 員	後 藤 哲 夫
委 員	高 田 道 夫
委 員	松 田 緑

5 出席職員

教育政策部長	沼 田 弘
教育課長	奥 陽 一
学校教育担当課長	野 邊 久 美
管理担当課長	前 田 浩 二
人権教育課長	瀧 口 泰 広
生涯学習課長	赤 松 嘉 彦
文化の森課長	中 嶋 聖 仁

6 開 会

教育長

委員の皆さまにおかれましては、お忙しい中ご出席をたまり、誠にありがとうございます。

なお、本多委員から、本日は欠席の旨の連絡をいただいておりますので、ご報告させていただきます。

本日の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定により定足数に達しております。よって、会議が成立しておりますので、ここに開会いたします。

本日の議事日程は、お手元に配付いたしております。

会議の傍聴についてですが、会議の傍聴を希望する者が7名ありますが、許可することとしてよろしいか。お諮りします。

各委員

異議なし。

教育長

ありがとうございます。それでは、稲美町教育委員会会議規則第19条の規定に基づき、許可することといたします。傍聴人は入室してください。

次は議事録署名委員の指名であります。議事録署名委員は、稲美町教育委員会会議規則第16条第2項の規定により、教育長から指名いたします。本日は松田緑委員にお願いします。

続きまして、私から、日程第1、諸報告ですが、別紙資料の通りです。

続きまして、各課より報告をお願いします。

教育課 (報告内容省略)

人権教育課 (報告内容省略)

生涯学習課 (報告内容省略)

文化の森課 (報告内容省略)

教育長

各課の報告について、何かご意見があればお願いします。

後藤委員

2ページの教育課の行事報告の中で、9月16日に中学校の体育祭があるということで、例年より早いかなと思うんですが、時間的には、半日とかコロナ対策があったんですが、そのあたりは元に戻っているのでしょうか。

奥課長

そのまま戻すということではなくて、いままでやってきたものと、コロナで調整してきたものと合わせながら、現状まだ調整中というところもありますが、学校とまた連携してどのような状況になっていくか見ていきたいと考えております。

後藤委員

いきなり1日というのも難しいと思いますので、調整よろしくをお願いします。

教育長

コロナが5類に変わって、今までのコロナ禍の中での縮小とか、そういうのではなくて、コロナ禍の中でいろいろ工夫してやっていて、時間短縮等いい部分は残していこうということで、コロナ前よりは若干スリムに、そして子ども達にとって充実した行事活動になるように学校で今計画を立てられているところです。

1点私の方からよろしいでしょうか。

今日、文化の森課の方に行かせていただいて、平和展を見せていただきました。行事が重なっていたせいか、アニメの音が聞こえにくいと感じました。来ていた子ども達と一緒に見ていたんですが、子ども達も聞こえにくいというのがあり、音量をあげられないのかと思いました。

中嶋課長

一番静かな時間帯に合わせてしまっていますので、人の波が引いた時にはある程度聞こえています。子どもさん達が結構ギャラリーに集まっておられましたので、そこはちょっと調整もさせていただこうかなとは思っています。しかし、どうしても静かな時は逆に大きすぎて事務所まで響き渡ってしまいますので、その辺は様子を見ながら調整していきたいと思えます。

教育長

今日は、ありがたいことにたくさんの方が来場されていまして、そういう影響もあったと思えますが、また様子を見ながらお願いいたします。

次は、日程第2、議案第8号「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書の採択について」を議題といたします。

この会に先立ちまして、稲美町教科用図書選定委員会 会長より令和5年6月8日付け稲教委第262号で諮問しました令和6年度使用公立小学校教科書の採択について、答申書の提出を受けました。選定委員会の皆さんには、大変な作業をお引き受けいただいたこと、感謝申し上げます。

なお、本日の教育委員会では、稲美町教科用図書選定委員会規約の第5章 議事録及び資料の公表の第13条に「選定委員会の会議の議事録及び前条第2項の資料（「調査員は、見本の送付があった全ての教科用図書の調査研究を行い、種目ごとに調査研究の結果を取りまとめた資料を作成し、代表者が各市町の選定委員会に報告する。」）については、8月31日以降公表する。」としていまして、稲美町教科用図書選定委員会の教科用図書調査に関する報告書についての説明や質疑応答等は、事務局が代わって行うこととします。

では、事務局から教科用図書調査に関する報告書作成にあたっての協議概要等を説明してください。

奥課長

最初に、加印地区共同調査委員会の調査研究の観点と今回採択に付した教科書説明をします。教科用図書採択に関する報告書の1ページから5ページをご覧ください。

まず1ページになりますが、令和6年度使用教科用図書加印地区共同調査会における調査研究の観点というページがございます。

こちらの観点到りまして、共同調査会で研究調査を行っております。

1、学習指導要領との関連というところで全種目共通の項目、6項目と、特別の教科道徳の4項目が記載してございます。

内容につきましては各教科それぞれ6から7項目が記載してあるかと思えます。

4ページになりますがその内容以外の部分としてその構成・分量については、同様に全種目

共通で、量であるとか学習時間との確認をしております。

4番目としましては、表記・表現を全種目共通で、文字のフォントであるとか文字の大きさ行間なんかを見て、報告書を作成しております。

この度採択に付す教科書及びその出版社の一覧を5ページに記載しておりますのでご覧ください。

それぞれ国語から始まり、特別の教科道徳まで記載しております。現在、見本本等を送ってきてもらっている会社について、調査研究いたしました。一覧が記載しておりますがそのうちの理科と生活について、信州教育出版を括弧書きでしておりますけれども、こちらについては、見本本の送付がございませんので、研究対象の対象外としております。まず報告書の1から5について説明いたしました。

続いて、これらの観点に基づいて調査された加印地区共同調査員会による調査報告書を参考に協議し、採択案として稲美町教科用図書選定委員会による教科用図書調査に関する報告書について協議概要を報告いたします。

まず、学習指導要領との関連は、いずれの教科書も学習指導要領に示された各教科及び道徳科の目標達成に結びつく内容でした。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫や多面的な見方ができるための工夫は、それぞれの教科書に特徴が見られました。

内容は、各教科の目標や特性に応じて、「知識及び技能」の習得と「思考力・判断力・表現力等」の育成のバランスがどうかや児童が主体的に学習を進めやすいかなどが協議の中心とされています。また、ICT機器やデジタルコンテンツを適切に活用するための配慮が示されているか、SDGsなど今日的課題が取り上げられ、発展的な学習も行うことができる工夫がされているかについても話し合われています。

構成・分量については、内容の量と学習時間が適切に配当されているかや系統的、発展的に構成されているかどうかを検討しました。

表記・表現は、教科書の大きさ、色使いや構成等の見やすさについて、ユニバーサルデザインの観点から検討しました。

教育長

協議の概要等について、ご質問はありますか。

後藤委員

まず、教科用図書の採択にあたり、全体を通した質問として、稲美町の児童にとって最もふさわしい教科用図書を選定していただくという点とともに、教員が教えやすく児童が学びやすいという点でも考慮いただいているかを確認しておきたいと思っております。どうですか。

奥課長

実際に授業を行う教員の視点、また、授業を受ける児童や保護者の視点から、「児童にとって学びやすく、教員にとって指導しやすい」教科書はどれがふさわしいかという内容が協議の中心となっています。

教育長

では、稲美町教科用図書選定委員会による教科用図書調査に関する報告書について事務局から説明してください。

今回、採択に付す教科書は小学校全種目ですので、協議の中心となった教科書に絞って協議の概要を説明してください。

まずは、国語・書写と社会・地図に関する報告をお願いします。

奥課長

国語・書写と社会・地図について、協議の概要を説明します。

教科用図書採択に関する報告書の7ページから13ページをご覧ください。

国語の3社、書写の3社、社会の3社、地図の2社は、いずれも学習指導要領に示されている各教科等の目標達成に結び付く内容となっていました。

国語は、「読む」「書く」「話す・聞く」の各領域のバランスや量から、東京書籍と光村図書の2社が協議の中心となりました。いずれも各領域がバランスよく配置され、系統的に学習できるよう工夫されています。

東京書籍は、どの教材も、「見通す⇒取り組む⇒ふり返る」の3段階で構成されており、学習の流れを児童に定着させやすい構成です。各教材に示されている手引きは、授業展開に活用しやすいものの、課題が丁寧でやや細かいといった特徴があります。

光村図書は、巻頭の「国語の学びを見わたそう」を活用し、各単元で繰り返すことで、学び方が定着しやすく、見通しをもって主体的に学習することができます。また、学習の最後に「ふりかえろう」が評価に関する3観点で設定されており、学習内容の定着度を確かめるための工夫がなされています。

書写は、全学年を通して、国語の教科書と連動した教材で構成されており、学習指導要領に示されている国語科の目標達成に結び付く内容となっています。よって、国語の教科書と違う発行会社を採用した場合は、新出漢字等の習得について留意する必要があります。また、多様性に配慮する視点から、左利きの児童への配慮についても話し合われました。そこで、東京書籍と光村図書の2社が協議の中心となりました。

東京書籍は、デジタルコンテンツの動画などを利用して姿勢や用具の持ち方を正しく理解することができ、左利きについても右利きと同様に示されています。また点画の特性を学び、整った文字を学べるよう、系統性のとれた配列になっています。

光村図書は、学習の進め方を「考えよう⇒確かめよう⇒生かそう」と示しており、児童の主体的な学びを支援するよう工夫されています。デジタルコンテンツが充実しており、筆遣いの解説動画はわかりやすく、右利き、左利きを自分で選択して確認することができるようになっています。

社会は、前学年の振り返り、最後に本学年の振り返りページが設けられているかどうかや系統的に学習できるよう工夫されているかどうかといった観点から、東京書籍と教育出版の2社が協議の中心となりました。

東京書籍は、問題解決型の学習を意識した展開となっており「つかむ→調べる→まとめる→活かす」の4項目で学習の流れが明確で、子どもたちに学習方法を定着させやすく、主体的・対話的な学びへと発展させるよう工夫しています。また、見開きの定位置に全学年のべ250点以上のデジタルコンテンツを収載し、動画やワークシートなどの多様なコンテンツを活用できるよう工夫されています。

教育出版は、4年で、地震/水害、水道/電気等、地域の実情に応じて学習内容を選択できる要素が多く取り入れられており、多様な学びができます。全体の構成としては、1時間の授業が「この時間の問い」からはじまり、最後に「次につなげよう」で本時に出た新たな問いが次時につながるよう意識された構成になっています。見通しを持って学習が進められるのですが、児童が主体的に疑問を持つことが難しいとも考えられます。

地図は、東京書籍と帝国書院の2社で、初めて社会で地図を使う3年への配慮や学習資料としての使いやすさ、見やすさを協議しています。

東京書籍は、キャラクターの吹き出しにより、資料を見たり判断したりする視点を具体的に与えていたり、「ホップ ステップ マップでジャンプ」という問いと作業のコーナーを設けたりと、楽しみながら地図学習が進められるよう工夫されています。見開き1ページの情報量が多めでグラフや資料が狭い範囲に多く掲載されています。

帝国書院は、3年生が活用しやすいように、はじめに「約束・使い方」を14ページにわたって丁寧に説明されていたり、アニメーションによる解説やクイズ、動画や画像など、600を超えるデジタルコンテンツを準備されていたりと様々な工夫がされています。また、「地図マスターへの道」は、主体的で対話的な学びへ導く手立てとなります。A4版で地図や文字、データも大きく見やすく、情報が精選されています。

以上が、国語・書写と社会・地図に関する協議概要の説明となります。

教育長

では、国語・書写から協議します。委員の皆さま、ご意見やご質問がありましたらお願いします。

後藤委員

国語は、各教科の学習にも大きく影響するので、「読む」「書く」「話す・聞く」の各領域を系統的に指導しやすいというのは、大切なポイントだと思います。選定委員会で協議の中心となった東京書籍と光村図書の2社がよく工夫されているのではないかと思います。

高田委員

各教科の学習の基礎的な力としても大切ですが、日常生活と関係した教材で、普段使うことばを豊かにしてほしいですね。

松田委員

光村図書には、高田委員のおっしゃるような教材が多くありましたし、2年生以上に「季節の言葉」という教材があるので、日本の四季を感じさせ、豊かな情操を育む指導ができると思います。

高田委員

光村図書は、ほとんどの学年の最後に織り込みで「言葉の宝箱」や「図を使って考えよう」織り込みページがあって、学年に応じてテーマ別に言葉がまとめてあったり、考え方を図で表したりする方法が紹介されていたりするので、子どもたちにとってとてもヒントになると思います。

後藤委員

東京書籍には「言葉相談室」や「情報の扉」があって、語彙力を高めたり、情報について使い方などを学習できたりする教材があります。

教育長

どちらの教科書も言葉をしっかり学ばせ、身に着けさせるための工夫があります。

では、国語の学習への興味や関心を高めたり、学びを深めたりするためのデジタルコンテン

ツについてはどうでしょう。

松田委員

どちらもデジタルコンテンツが豊富に用意されていましたが、光村図書は目的に応じて選択して使えるような工夫があり、授業に使いやすいのではないかと思います。

高田委員

そうですね。それに私は、先生に教えていただくのではなく、やはり子どもたちには自分達で学んでほしいと思います。光村図書の学習スタイルは、はじめに「問いをもとう」という投げかけがあって、自分で疑問に思ったことを友達と意見を交流させながら答えを見つけていくといった、主体的な学習ができるところがいいなと思いました。

教育長

では、国語は光村図書にしたいと思いますが、いかがでしょう。

各委員

異議なし。

教育長

皆さまから「異議なし」の声をいただきましたので、国語は、光村図書とします。書写は、いかがですか。

松田委員

どの教科書も全学年を通して国語の教科書と教材が連動していました。

後藤委員

書写の時間に習っていない漢字が出てきたりすると、そこで新出漢字の指導も必要になりますし、国語で出てくる物語文が書写の手本にも出てきたりすると、子どもたちもうれしくなります。

高田委員

光村図書は3年生以上でSDGsに触れられていて、4年生には「SDGsブック」もありました。

後藤委員

東京書籍もSDGsの観点から学習用具の大切さなどについて触れていましたが、子どもたちにはわかりにくいように思いました。

教育長

それでは、書写は光村図書にしたいと思いますが、いかがでしょうか。

各委員

異議なし。

教育長

「異議なし」のお声をいただきましたので、書写については、光村図書とします。続いて、社会について協議します。ご意見やご質問がありましたらお願いします。

後藤委員

社会は、身近な地域から稲美町、兵庫県、日本、日本とその周辺の国々や世界の国々へと広がっていきますので、系統的に指導しやすい構成となっていることは重要です。情報を調べたり、まとめたりするといった学習活動への配慮について、選定委員会ではどういった意見がありましたか。

奥課長

社会は身の回りの出来事から世界へと視野を広げていく教科であり、歴史を学ぶことで現代社会を見つめなおす教科でもあります。そこで、問題解決型の学習を意識した展開となっているか、主体的な学びとなるように構成されているかというところに着目したいという意見が出ました。また、社会科という教科の特性から、写真や表やグラフといった資料を見て考察したり学びを深めたりする学習が多いと考えられます。稲美町の子どもたちは一人一台端末を活用することにずいぶん慣れてきているので、資料を見て知識を得たりそこから興味関心を広めていったりするためにもデジタルコンテンツの充実度やその内容が重要であるという意見もありました。

松田委員

どの教科書にもたくさんの二次元コードが掲載されていました。いくつかを読み取ってみたら、美しい映像や楽しい動画があったりクイズ形式で学習が進められるようなくふうがあったりして、わかりやすいし楽しみながら学習できると思いました。

高田委員

それ以外にも、グラフ、写真、地図といった資料がずいぶん豊富になった印象です。また、ワークシートも充実していて、学習したことをまとめやすいと思いました。各社とも工夫されていますが、東京書籍はイラストや写真がはっきりとしていて見やすいですし、比較的わかりやすく整理されていると感じました。

後藤委員

私もそう感じました。二次元コードによる資料とあわせて、「学び方コーナー」も子どもたちが主体的に学習を進めていく手がかりになると思います。

高田委員

我が国の国土や歴史についての記述には、ほとんど差が見られませんでした。

松田委員

よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うという観点からみると、東京書籍、教育出版ともに学習の流れや学習方法がはっきり示されていて、主体的・対話的な学びへつながるように工夫されていますが、東京書籍の方が自分たちで課題を見つけて解決しているという流れがはっきりしており、まとめ方もいねいに示されているように感じました。また、5・6年生が分冊となっているので、持ち運びしやすいと思いましたし、3年では、すぐお隣の明石市がとり上げられており、関心を持って学べそうです。

後藤委員

教育出版も学習モデルが示されていて見通しを持った学習ができると思うのですが、「この時間の問い」や「みんなで作った学習課題」として課題がはっきりと示されていてしまっているの、

子どもたちが自分で課題を見つけたり疑問を持ったりすることが難しくなってしまうのではないかと感じました。

教育長

では、社会は東京書籍にしたいと思いますが、いかがでしょう。

各委員

異議なし。

教育長

「異議なし」のお声をいただきましたので、社会については、東京書籍とします。
地図はどうでしょう。

高田委員

帝国書院が使いやすいそうでした。二次元コードから多様なコンテンツが提供されており、学習にも大いに活用できそうですし、子どもたちが興味を惹くような情報もたくさんありました。

後藤委員

帝国書院は、地図の基本となる約束ごとや使い方がとても丁寧に説明されているので、初めて地図を使う3年生に使い方がしっかりと身につくと思います。また、ゆったりとした紙面づくりがなされていますし、山地と平野の違い等の色合いがはっきりしておりとても見やすいです。

松田委員

私も、地図は帝国書院がよいと思います。

教育長

では、地図は帝国書院にしたいと思います。

各委員

異議なし。

教育長

「異議なし」のお声をいただきましたので、地図については、帝国書院とします。
続いて、算数と理科の報告をお願いします。

奥課長

算数と理科について、協議の概要を説明します。

教科用図書採択に関する報告書の15ページから21ページをご覧ください。

算数の6社、理科の5社は、いずれも学習指導要領に示されている各教科の目標達成に結び付く内容となっていました。

算数は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫や生活や学習との関連、情報機器などの活用の観点から、東京書籍と啓林館の2社が協議の中心となりました。

東京書籍は、毎日の学習で使うページと2年以上の各巻末に復習や補充、発展のための「新

しい算数プラス」との2部構成になっており、基礎基本の習得と多様な学びの両方を意識した構成になっています。また、主体的・対話的な学びの実現につながるよう、導入に自分で考える場面を設定しています。

啓林館は、日常生活の中での疑問や出来事を各単元の導入に取り入れることで、児童が学習への意欲付けを図っています。また、キャラクターのつぶやきにアンダーラインを引くことで、数学的な見方・考え方を意識させるといった工夫がなされています。授業や家庭学習に活用しやすいよう「めあて」や「まとめ」を明確に示しているといった特徴もあります。

理科は、主体的に学習できる工夫や問題解決の能力を育成する工夫、観察、実験などコンピュータや情報通信ネットワークなどを活用するための配慮といった観点から、東京書籍と啓林館の2社が協議の中心となりました。

東京書籍は、各単元の学習過程が明確で、児童が主体的に学びを深められるよう工夫しています。また、言語活動も定着を図るために児童同士の対話例などを随所に掲載し、協働的に問題解決に取り組ませることについて児童に指導しやすいといった特徴があります。

啓林館は、問題解決の過程を「問題をつかもう」「問題」「予想」「計画」「実験・観察」「結果」「考察しよう」「まとめ」「もっとしりたい」「次の問題へ」とらせん状に示されており、単元末の「活用しよう」では科学的な思考を深めることができるので、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力の育成につなげやすい構成になっています。

教育長

では、算数から協議します。委員の皆さま、ご意見やご質問がありましたらお願いします。

後藤委員

啓林館の学習の流れは、わかりやすいと思いました。「めばえ」から「めあて」、「まとめ」といった一連の流れが子どもたちに定着することによって、より学習内容に集中できると思います。

高田委員

東京書籍は、もくじの右端の「後の学習」で、下の教科書や次の学年、中学校で学習することが示されていて、学びがつながっていることがよくわかっていいなと思いました。今の学習したことが今後の学習にも生かされるということがわかると、勉強しとかなくっちゃ、という気になるかなと思います。

松田委員

新しい単元に入る前の「どんな学習をしてきたかな？」とおさらいを兼ねて、全学年の学びの大切さがわかっていいです。

高田委員

今回は1年生に別冊のスタートブックがある教科書が多かったです。これも幼稚園や保育園からのつながりを意識してのことかなと思いました。

後藤委員

啓林館のスタートブックにも二次元コードが付いていました。ちょっと見てみたんですが、かわいらしい動画で「数をかぞえてみよう！」という気持ちになって楽しく勉強できると思いました。

松田委員

啓林館は、二次元コードに見出しやマークがあるので使いやすい。私も試してみたのですが、「何倍でしょう」の単元では問題を解くための図の描き方を動画で見ることができました。自分で図を描いて考えるのも大切な学習だと思いますが、描くことが苦手な子にとってはそのストレスが軽減される上に分かりやすいとなれば、とても便利なアイテムです。子どもたちの学習の方法もいろいろになっていくので、とても楽しみです。

高田委員

「目で見て、わかりやすい」ということはいいことです。わかったという実感にもつながると思います。もちろん、鉛筆でノートに図や表を描いたりまとめたりといった、今までの学習の方法もとても大切だと思います。ICTを上手に活用してたくさんの子が「わかった！！」と感ぜられる算数の授業になればいいです。

後藤委員

啓林館のデジタルコンテンツは種類も充実しています。特に動画は、数学的活動の楽しさも日常生活と関連づけられていて、子どもたちが実感しやすい工夫がされていると思いました。

松田委員

啓林館は、文字の大きさや線の太さ、色づかい、ページのレイアウトなどが見やすく感じました。

教育長

では、算数は啓林館にしたいと思いますが、いかがでしょう。

各委員

異議なし。

教育長

「異議なし」の声をいただきましたので、算数は、啓林館とします。
理科は、いかがですか。

松田委員

どの教科書も、子どもの日常生活と自然の事物・現象についての理解を図るよう工夫されています。コラムとして、子どもたちが興味をもって読めるんじゃないかなと思います。資料となる写真なども、たくさん掲載されています。

後藤委員

ちょっと多すぎるのではないかと感じる教科書もあります。写真のレイアウトは、啓林館がすっきりしているように思いました。そういう見方をしていると、二次元コードで資料を提供するのも効果的だと感じます。

高田委員

東京書籍はサイズも大きく、写真も大きいのでわかりやすいですが、文字も多い感じですが。情報が多すぎるような感じがします。

後藤委員

そういう感じも受けます。サイズが大きい分、一人一台端末を置くスペースがないような気がしますし、重くなります。

松田委員

啓林館は東京書籍に比べてサイズは小さいのですが、発展的な学習にも配慮しながら子どもの科学的思考のつながりを重視した単元の配列となっています。

高田委員

めあても、事象からどんな関係があるのかを問うなど質の高い問いとなるよう工夫されていると思います。また、どの学年の巻頭にも「学びの中で ICT を活用してみよう」というページがあり、ICT を子どもたちが道具としてどのように使えば効果的に学習に活かせるのかが紹介されていていいと思いました。

教育長

では、理科は啓林館にしたいと思いますが、いかがでしょう。

各委員

異議なし。

教育長

「異議なし」の声をいただきましたので、理科は、啓林館とします。

続いて、生活、音楽、図画工作、家庭、体育（保健）の5種目についての報告をお願いします。

奥課長

生活、音楽、図画工作、家庭、体育（保健）の5種目について、協議の概要を説明します。

教科用図書採択に関する報告書の23ページから35ページをご覧ください。

生活の6社、音楽の2社、図画工作の2社、家庭の2社、体育（保健）6社は、いずれも学習指導要領に示されている各教科の目標達成に結び付く内容となっていました。

生活は、児童が授業で、身近な人々、社会及び自然と直接関わる活動や体験を行ううえで使いやすいかどうかといった観点とスタートカリキュラムへの対応という点から、東京書籍、啓林館の2社が協議の中心となりました。

東京書籍は、授業が主体的・対話的で深い学びとなるよう、具体的な言語活動の例が示されています。他教科との関連も示されており、子どもも指導者も横断的な学びを意識できます。また、スタートカリキュラムに多くのページが割かれており、幼稚園等との円滑な接続ができるよう工夫が見られました。

啓林館も上巻の冒頭にスタートカリキュラムを掲載し、幼稚園等との接続を意識したつくりとなっています。また、単元の導入として「わくわく」、主な活動「いきいき」、ふりかえり「ぐんぐん」の3段階で構成されており、活動の流れを明確に示しています。学校、家庭及び地域の生活に関する内容のページ数が多く、兵庫県の写真もたくさん掲載されており、学習を身近に感じることができます。

音楽は、音楽づくりについて、様々な発想をもって音遊びをしたり、即興的に表現したりすることができる工夫がなされているかが協議の主な内容となりました。

教育出版は、児童の興味関心に応じて学習ができるよう「学び合う音楽」「音のスケッチ」「もっと遊ぼう」などが単元の内容に応じて設定されています。また、日常生活に即して児童が自ら音楽表現できるよう工夫されています。学習を進める手立てとして、「まなびナビ」を設けています。また、「はってん」では小学校の学習内容ではない発展的な学習を紹介しています。

教育芸術社は、単元構成を「見つける」「考える」「歌う」「演奏する」「作る」で共有化し、児童が主体的対話的に授業に臨めるように工夫されています。また、指導のねらいがはっきりしており、6年間を通して系統だった指導がしやすいと考えられます。

また、学習内容に沿ったマークが適切に配置されていたり、教科書右ページの端に二次元コードが掲載されていたり、児童にとって学びやすいよう工夫されています。補助教材には、児童の興味・関心を広げる曲を多数掲載しています。

図画工作は、つくりだす喜びを味わうことができる工夫がなされているかが協議の主な内容となりました。

開隆堂は、考えたり、選んだり、伝え合ったりする場面を写真と児童の声の吹き出しで表現し、発想・構想の方法を紹介しており、キャラクターが学習のヒントを示しています。

日本文教出版は、複数で制作している児童や話し合う児童の写真を取り入れ、対話を通して思考力を働かせ、学びを深めるよう意図しています。そして、「ひらめきポケット」で発想のヒントを示しています。

家庭は、実感を伴って理解する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりする学習活動となるよう工夫がなされているかが協議の主な内容となりました。

東京書籍は、「生活を変えるチャンス」を単元終末に設定して、学んだことを実生活に生かす場や方法を具体的に提示しています。実寸大の写真・挿絵を用いることで、調理・裁縫のでき具合を自分で確かめながら、技能が習得できるよう工夫しています。

開隆堂は、学習したことを実際にチャレンジする機会を設定したり、家庭生活での実践例や日本文化とのつながりを紹介したりすることで、学習内容と自分の生活を結び付ける活動が随所に見られました。

体育（保健）は、やはり小学生の関心の高い「思春期の体の変化」と近年、拡大と低年齢化が問題視されている「薬物乱用」についての取扱い、資料の見やすさや、内容と量といった観点から東京書籍と光文書院と学研の3社が協議の中心となりました。

東京書籍は、章ごとに目標が明記されており、「気づく・見つける」「調べる・解決する」「ふかめる・伝える」「まとめる・生かす」と学習の進め方が明確に示されています。体の変化については写真やイラストを用いて詳しく説明されていますが、やや情報過多で記述スペースも多いです。

光文書院は、1単位時間ごとの学習内容をまとめ、自分の生活や今後の学習に生かせるように記入欄が工夫されており、量も配慮されています。また、二次元コードで性についての悩みについての相談窓口やホットラインの紹介があります。

学研は、単元の冒頭に学習の目標が設定されており、各単元での疑問点や他教科との関連が示されています。体の変化に関する写真や薬物についての説明が少なくイメージしにくいのではという意見がありました。

以上が、生活、音楽、図画工作、家庭、体育（保健）に関する協議概要の説明です。

教育長

では、生活から協議します。委員の皆さま、ご意見やご質問がありましたらお願いします。

松田委員

どちらの教科書にも冒頭に少しサイズを小さくしたスタートカリキュラムが入っています。「小1ギャップ」をなくすためにも必要なことだと感じました。

後藤委員

東京書籍はページの下の方に「幼児期に育てほしい10の姿」の主な例が示されているので、幼稚園等での学びとのつながりがよくわかります。

教育長

サイズが違うのですが、そのあたりは皆さんどう思われますか。

高田委員

東京書籍はサイズが大きいのですが、1・2年生の子どもにはこれくらいの方が見やすいのではないかと思います。文字も写真も大きくて分かりやすいし、適度な余白がありゆったりしているように感じました。それに、学習することの楽しさやわくわく感が伝わりやすいのではないのでしょうか。

松田委員

内容面では、啓林館は、学校、家庭及び地域の生活に関する内容のページ数が多く、兵庫県の写真もたくさん掲載されており、学習を身近に感じることができるように思いました。

後藤委員

東京書籍は子どもたちが話し合っている様子の挿絵が多く、子どもたちが活動のイメージが持ちやすいように工夫されていると思いました。

教育長

それぞれの教科書の特徴が出ています。

ところで、低学年の児童も一人一台端末が配布されていますし、子どもたちはすぐに使い方を覚えるかと思います。ICTの活用についてはどうですか。

後藤委員

どちらの教科書も巻末に資料的どころに一人一台端末の使い方等が紹介されていました。また、二次元コードも掲載されていましたが、内容・量が気になりました。

高田委員

生活科は1・2年生の教科書であるので、低学年向けの二次元コードについてはとても興味がありました。いろいろ見てみましたが、東京書籍は他社よりとびぬけてコンテンツの量が多く、写真や音声、動画等、とても豊富で面白かったです。

教育長

授業での流れについてはどうですか。

松田委員

啓林館は、学習の展開や授業の流れはとてもわかりやすいと思います。ただ、1・2年生の子どもが学ぶということを考えたら、ちょっと硬いという印象です。

後藤委員

東京書籍はキャラクターが考えるヒントを与えてくれたり、カードの記入例も多く載せられていたりするので、低学年の子どもたちが取り組みやすく親しみが持てる教科書だと思います。

教育長

では、生活は東京書籍にしたいと思いますが、いかがでしょう。

各委員

異議なし。

教育長

「異議なし」の声をいただきましたので、生活は、東京書籍とします。
音楽は、いかがですか。

後藤委員

児童が主体的に学習を進めるために、教育出版は「まなびナビ」、教育芸術社は「見つける」「考える」「歌う」などのマークでいろんな手立てを示しています。

高田委員

最近、よく耳にするようになった曲も、結構取り上げられています。教育出版の「音のスケッチ」や教育芸術社の「音楽づくり」では、子どもたちが工夫して音や音楽をつくったり演奏を楽しんだりできるので、とてもおもしろそうです。

教育長

子どもたちの自由な発想はとても楽しいのですが、表現にまとめていく先生方には苦労もあると思います。

松田委員

教育芸術社は学びの道筋がマークと言葉できっちりと示されていて、わかりやすいのですが、その分、子どもたちの学びに「枠」があるように感じられます。

後藤委員

どちらの教科書も知識技能の習得や思考力等の育成について、系統的に指導できるよう教材が配置されています。しかし、子どもたちの日常生活に即して、興味関心に応じた学習を展開しているという点では、教育出版の方が自由度が大きく、音楽を楽しむゆとりがあるように感じました。「学びリンク」が役立つと思います。

高田委員

色遣いや挿絵・写真についても教育出版はやわらかい感じがして、イメージを膨らませやす

いと思いました。

教育長

では、音楽は教育出版にしたいと思いますが、いかがでしょう。

各委員

異議なし。

教育長

「異議なし」の声をいただきましたので、音楽は、教育出版とします。

図画工作は、いかがですか。

松田委員

図工は子どもの作品が表紙を飾っていて、表紙あけるととっても楽しそうに生き生きとした様子の子どもの笑顔が飛び込んで来て、わくわくしました。特に開隆堂の写真がいいです。写真も文字も大きくダイナミックで、子どもたちは「やってみたい!」「つくってみたい!」という気持ちになります。

後藤委員

開隆堂の表紙裏には、1年では幼稚園の先生から、6年では廃材アーティストからという風に様々な人からのメッセージが載っていて、それを読むとアートの世界に引き込まれるような感じがしました。

高田委員

日本文教出版は、マスクをした子どもの写真が多いです。感染症対策をしながらでも図工に楽しく取り組めるよ、というメッセージが込められているのかもしれませんが、やはり、マスクのない方が楽しい、真剣、考えている等、いろいろな表情が読み取れていいかと思います。

松田委員

作品の手順が分かりやすいのは日本文教出版です。左のページの上に、学習のめあてが3つのマークと共に示されているので、上手、下手だけでなく評価してもらえる気がします。

高田委員

他教科と違って、教科書会社によって取り上げられている題材も順番もいろいろだということが分かりました。

後藤委員

日本文教出版は、絵画も工作や粘土も自分たちで作ってそれを鑑賞するといったスタイルが多いです。新学期の始まりも鑑賞からという学年もありました。開隆堂は、制作と鑑賞の時間が分けてあるように感じました。友だちの作品を評価し合うのもいいですが、名画等をじっくり見る時間もあっていいかなと思います。

松田委員

図工は時間数が少ないけど、人気のある教科の一つだと聞きました。やっぱり、作品作りに取り組む時間はたっぷりあってほしいと思います。また、身近なものを題材や材料とし

ている点や SDGs の視点が入っているのは開隆堂の方がいいと思いました。

後藤委員

また、開隆堂の左ページ下には二次元コードがあって、その単元の導入や道具の使い方、注意事項など、必要な情報が見られて便利だと思いました。アイディアシートや作品カードもあるので、先生も授業に使いやすいのではないのでしょうか。

高田委員

開隆堂は「あわせてまなぼう」で他の教科とのつながりが示されていて、子どもたちの視野が広がっていいなと思いました。

教育長

みなさんの意見をまとめますと、図工は現行の教科書から変わることになります。事務局におたずねします。この点について、現場に隔たりはありませんか。

奥課長

先ほど高田委員のご発言にもあったように、図工は、教科書会社によって題材も順番もいろいろでありますし、先生方もその時の子どもたちにふさわしい題材を選びます。したがって混乱等はありません。

教育長

では、図画工作は開隆堂にしたいと思いますが、いかがでしょう。

各委員

異議なし。

教育長

「異議なし」の声をいただきましたので、図画工作は、開隆堂とします。
家庭は、いかがですか。

松田委員

家庭は、衣・食・住といった実生活に直接関係してくる内容なので、授業で学んだことを普段の生活に生かしてほしいです。

後藤委員

調理は授業で実習しますが、班別に同時進行するので、いろいろな作業を時系列で示している東京書籍は使いやすいと思いました。子どもが自分たちで相談しながら進めていく参考になると思います。

高田委員

家庭科は5年生からスタートする教科ですが、東京書籍は巻頭に成長のふり返しとして、1年からの学習が家庭科とつながっていることが分かりやすく説明されていて、私もなるほどと思いましたし、「生活をよりよく変えていく教科です」という言葉で、家庭科の魅力が子どもたちに伝わるのではないかと感じました。

松田委員

開隆堂は、学習内容が5・6年ほどこと明記されていないのが、残念です。

後藤委員

それに、開隆堂は学習単元が20もあります。丁寧に学べるし、作品の例も多くていいかと思いますが、ちょっと盛りだくさん過ぎて子どもも教師も不完全燃焼を起こすのではないかと心配です。東京書籍は15ですので程よい分量ではないかと思います。

高田委員

家庭科は安全が重視されるべき教科だと思います。東京書籍は巻頭で「いつもたしかめよう」ということで衛生・安全についての注意事項が分かりやすくまとめてあります。また、それぞれの単元でもマークをつけてその都度注意を促しているところがいいと思います。

松田委員

東京書籍は、裁縫や調理の手順の写真が手元を写していてとても分かりやすいです。開隆堂は説明がていねいだし、事例等も豊富なのですが、文字が小さめでびっしり詰まっていて情報量が多すぎる感じがします。

後藤委員

東京書籍は洗濯物干しやアイロンがけ、風呂掃除など、家事をするイラストが男子になっていて、男女共同参画の視点が感じられます。

高田委員

多様性という点でも東京書籍のイラストや写真には配慮が感じられました。

教育長

では、家庭は東京書籍にしたいと思いますが、いかがでしょう。

各委員

異議なし。

教育長

「異議なし」の声をいただきましたので、家庭は、東京書籍とします。
体育（保健）は、いかがですか。

松田委員

東京書籍は学習の進め方が各単元の冒頭の右ページの右肩に示されていてとてもわかりやすいです。写真やイラストに車いすの子や肌や髪の色が様々な子が登場しており、多様性に配慮したものになっているなと思いました。

後藤委員

光文書院もどの単元も「見つけよう」「話し合おう」「考えよう」「調べよう」「生かそう」構成されていて、子どもにとって取り組みやすいのではないかと思います。

高田委員

1時間の授業が見開き2ページ程度にまとめられているところもいいと思います。また、子どもたちが記入するスペースもそれほど多くなく、適当ではないでしょうか。

後藤委員

東京書籍や学研は、記入するところが多いように思いました。話し合ったり意見を交流したりする時間を考えると、なかなか書ききれないのではないのでしょうか。

松田委員

わたしは、多様性への配慮について考える上では「思春期の体の変化」の内容が気になりました。どこも写真やイラストで丁寧に説明を入れていましたが、学研は子どもと大人の体つきの違いがイラストで大きさに違和感がありましたし、イラストのみで写真がなかったところが残念でした。

高田委員

思春期には体だけではなく、心の変化も大きいです。そのあたりはどうでしたか。

後藤委員

3社とも性についての相談窓口の紹介がありました。特に光文書院は巻末ではなく、単元の続きに掲載されており、子どもたちに寄り添った紙面づくりであると感じました。

松田委員

わたしは、「薬物乱用」について着目したのですが、薬物についての写真が学研にはありませんでした。東京書籍や光文書院には薬物そのものの写真やその影響で歯がボロボロになっている写真を載せていて、子どもたちにとってインパクトがあり薬物の怖さがより伝わるのではないかと思います。

教育長

事務局にお聞きします。委員のご意見をまとめると、保健については、光文書院が適切であると思われるのですが、現行の教科書会社とは違っています。この点について、現場での戸惑い等はでしょうか。

奥課長

学習内容には変化はありませんので、問題ありません。

教育長

では、体育（保健）は光文書院でよろしいか。

各委員

異議なし。

教育長

「異議なし」の声をいただきましたので、体育（保健）は、光文書院とします。
続いて、外国語と特別の教科 道徳の報告をお願いします。

奥課長

外国語と特別の教科 道徳について、協議の概要を説明します。

教科用図書採択に関する報告書の37ページから43ページをご覧ください。

外国語の6社、特別の教科 道徳の6社は、いずれも学習指導要領に示されている各教科及び道徳科の目標達成及び結び付く内容となっていました。

外国語は、ペア・ワークやグループ・ワークなどを取り入れた活動やコミュニケーションへの配慮、デジタル教科書を併用することが考えられますので、言語活動の充実とデジタルコンテンツの内容や量、使い勝手といった観点から、東京書籍と開隆堂の2社が協議の中心となりました。

東京書籍は、児童が意欲的に取り組めるような様々な言語活動が設定されており、めあての横に掲載されている二次元コードで、単元の最終目標として行う言語活動が動画で説明されている。また、自分のことから身の回り、日本国内、世界へと視野を広げていき、系統的に学習が進められるよう工夫がされています。My Picture Dictionary を別冊としており、二次元コードの横には、各学年で学習した教科書のページが記載されています。

開隆堂は、単元のはじめに GOAL として、その単元で付けたい力が明確に示されています。また、各単元に「読むこと」に重点を置いた発展的活動 Story Time があります。Word Book は、学年ごとの別冊となっていてカテゴリーごとのマークがあり、カテゴリーに合った例文が示されています。

特別の教科 道徳は、主題のとらえやすさや多面的な見方ができる工夫がされているかといった評価にかかる観点から、東京書籍と光村図書の2社が協議の中心となりました。

東京書籍は、6年間を通して道徳性を高める内容構成になっていました。目次の次に「何を学ぶのかな？」で教材内容項目を4つの観点に分け、主題を分類して示しています。

光村図書は、題材のバランスが良く、様々な道徳的価値について考えることができます。「話し合いのコツ」「心を通わそう」「考える準備体操」「学びの道具箱」等、話し合いの具体的な方法が提示され、考えを深める手助けとなる工夫がされています。

以上が、外国語と特別の教科 道徳に関する協議概要の説明となります。

教育長

では、外国語から協議します。委員の皆さま、ご意見やご質問がありましたらお願いします。

高田委員

外国語の目標から考えて、やはりコミュニケーションを図ろうとする態度を養うためには、ペア・ワーク、グループ・ワーク等のいろいろな活動方法によって外国語に親しませたいです。

松田委員

東京書籍が、「聞く」「読む」「話す」「話す(やりとり)」「書く」4技能5領域についてそれぞれのマークをつけて、バランスよく練習できるように組まれていました。特に、コミュニケーションの力を育てる話す活動のやりとりとしてスモールトークが示されていて分かりやすいです。

後藤委員

自信を持って楽しく話せるようになるまで、繰り返し練習してほしいです。東京書籍は、子どもたちが楽しく学習できるように、どの単元にも Let's Sing として 英語の歌が紹介されていて自然に覚えられるように工夫されていました。Let's Chant もあって それぞれに二次元コ

ードがついているので、動画や音声を楽しみながら飽きないようにいろんな方法で練習できれば、自信もついて外国語の時間が楽しくなると思います。

高田委員

身につけたフレーズをいろんな場面で、いろんな活動で使ってほしいです。そうした観点で見ると、開隆堂も習った表現を何度も繰り返し使う場面設定が多く取り入れられていましたし、会話練習の機会もたくさんありました。ただ、二次元コードは教科書の右ページの上端に掲載されていて、いろいろな内容がまとめて入っているので、ちょっと使いづらいように思います。

後藤委員

デジタル教科書をみると、どちらの教科書も英語字幕に ON/OFF の機能がありましたが、開隆堂はスピードが調節できるので、子どもたちが一人で学習するときには助かります。コンテンツの量で比べると東京書籍の方が充実していました。

松田委員

私は、グローバル化が進んでいる時代ですので、子どもたちには自分の思いを堂々と伝えられるようになってほしいです。東京書籍には各単元にプレゼンテーションに向けての活動の例もあるので、発表することへのハードルが下がっていいかと思いました。

高田委員

文字の指導も入ってくるのですが、やはり、子どもたちがたくさん話す、たくさん活動する授業が望ましいと思います。音声から文字へとつなげる指導が段階的に行うことができるように工夫されている東京書籍がいいのではないのでしょうか。

松田委員

子どもたちには、世界や日本の文化に興味を持って、知ろうとしてほしいと思います。

後藤委員

東京書籍の Over the Horizon には、世界のいろんな国々の文化的なことが紹介されています。

教育長

では、外国語は東京書籍にしたいと思いますが、いかがでしょう。

各委員

異議なし。

教育長

「異議なし」の声をいただきましたので、外国語は、東京書籍とします。

最後の教科は、特別の教科 道徳です。道徳については、事務局より少し説明があります。

奥課長

平成30年に「特別の教科道徳」となってからもう6年たちました。初めの頃は評価のことで随分協議をしましたが、今では落ち着いて授業が展開されるようになってきています。とはいえ、子どもたちの心の教育でもある道徳は、先生方にとっても非常に難しい授業であるので、常に教材研究と授業改善に努めていかねばなりません。にもかかわらず、長らく使用していた

「廣済堂あかつき」の教科書は今回の採択候補の中には入っておりません。よって、教科書が変わることが必然となります。そのあたりもご留意いただき、協議をお願いします。

後藤委員

前回の採択の際は、道徳ノートがついていた教科書が多かったのですが、今回、ノートがあったのは一社だけでした。学校現場では道徳ノートについてはどのようなお考えなのでしょうか。

奥課長

道徳ノートについては「まずは、一度使ってみよう」というところから使用を始めました。当初めは、評価するにあたって児童の学びの足跡をノートという形でまとめておく方は有益であると考えられておりましたが、徐々にノートでなくてもよい、ノートでない方がよい、という考え方も出てまいりました。そういった現場の声から、今回はノートを付けるところが少なくなったものと考えられます。

後藤委員

では、ノートがあるなしは特に考慮せず、内容で考えていけばよいのですね。

松田委員

私は、光村図書がいいなと思いました。題材のバランスが良く、様々な内容について考えられるかと思いました。

高田委員

光村図書には「考えるヒント」として、思考ツール、役割演技、活動のアイデア、道徳で使う言語などが紹介されています。

後藤委員

物事を一面的にとらえず、色々な方向から考えていくというのは、大切なことです。

高田委員

道徳が教科化されるきっかけの一つは、いじめ問題だったと聞きました。いじめを扱った教材について、選定委員会ではどういった意見がありましたか。

奥課長

いじめを扱っている教材の数ですが、直接いじめを扱っているかどうかで多いか少ないかを判断するのはやや難しいのではないかといった意見でした。直接的にいじめを扱っていない教材も、いじめを主題として教員が授業をすることは、十分可能ではないかという方向です。

松田委員

東京書籍や教育出版は、いじめ問題を扱った内容がちょっと少なかったように思いました。光村図書や日本文教出版は、他者への思いやりや、人権意識を深めることができるいじめ問題を扱った内容が他社より多めなように感じました。

教育長

道徳の時間は、教科書以外にも兵庫版道徳教育副読本、防災教育副読本「明日に生きる」な

ども活用しているので、年間35時間という授業時数の関係もありますが、扱う教材をよく検討していじめに関する指導を充実してほしいと思います。

後藤委員

その時の子どもたちが抱える課題に応じた道徳的価値を高める教材をタイムリーに活用して、よく考えて学んでほしいです。

高田委員

道徳にも二次元コードがたくさんついていました。東京書籍は、道徳ノートはありませんが、二次元コードを読み込むとその教材のワークシートが出てきて、考えたことを残せていいと思いました。

松田委員

東京書籍も光村図書も二次元コードを使って教材文の範読を聞いたり資料を見たりすることができました。高学年にもなると教材文が結構長文になってきますので、読むことが苦手な子にとっては、範読が聞けることは助かります。

後藤委員

光村図書は、教材の終わりに「つなげよう」があり、その時間に学んだことを通して自分の過去や未来の生活を考えさせるといった工夫が見られます。

高田委員

東京書籍の教材は、読み応えのある道徳的価値がはっきり示されている内容が多く、ある程度方向性が決まっているので、子どもたちも分かりやすいし先生も指導がしやすいかと思います。その反面、心の葛藤や考えの揺れがおこらず多面的な物の考え方ができにくいように思います。それは果たして良いものなのかと疑問に感じました。

松田委員

東京書籍は印象に残るすてきな写真が多かったのですが、これもイメージを固定化してしまうのではないかとも思いました。

高田委員

光村図書の教材は、正解を一つに決めにくい教材や、いろいろな立場で問題を考えることができる教材が多いように思いました。

後藤委員

指導する先生の力量が問われることと思いますが、多面的で多角的な物の見方ができる人になってほしいと思いますので、たくさんの意見を交流しあって、しっかりと道徳的価値について子どもたちに考えさせたいです。

高田委員

そういった意味では、教材に柔軟性がある光村図書を使用してほしいです。

教育長

では、特別の教科 道徳は光村図書にしたいと思いますが、いかがでしょう。

各委員

異議なし。

教育長

「異議なし」の声をいただきましたので、特別の教科 道徳は、光村図書とします。

これで、小学校全教科・種目の審議が終わりましたので、議案第8号「令和6年度使用義務教育諸学校教科用図書の採択について」の結果を確認します。

国語【光村図書】、書写【光村図書】、社会【東京書籍】、地図【帝国書院】、算数【啓林館】、理科【啓林館】、生活【東京書籍】、音楽【教育出版】、図画工作【開隆堂】、家庭【東京書籍】、体育（保健）【光文書院】、外国語【東京書籍】、特別の教科 道徳【光村図書】

以上で、よろしいでしょうか。

各委員

異議なし。

教育長

ご異議なしと認めます。よって本案は、審議のとおりとなりました。

次は、日程第3、その他(1)「第1回図書館協議会の報告について」を事務局から説明願います。

中嶋課長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

高田委員

はい質問というよりも私の感想をお伝えしたいと思っております。

資料の中で、稲美町の電子図書館の利用率が非常に高いということで、その理由について質問をしている委員さんがおられるわけなんです、それに対してちゃんとした回答というのはないわけなんで、そこで、私は、何でやろうなあということで、やっぱりちゃんと見ないといけないと思い、インターネットで稲美町の電子図書館を開けてみたんです。そしたらやっぱり驚きが最初にあったんです。なぜかという、稲美町の図書館だからまずは、稲美町立図書館というホームページがそこにあって、そこをどこかクリックしたら、その電子図書館が出てくるなという、予想があったわけです。検索すると、もういきなり稲美町の図書館と同列に、稲美町立電子図書館というのがあるわけです。自分が見たいのはこれだという、いきなりポンと電子図書館を選択できるということが、第一印象として良かったと思います。

どんな本があるのかというのが、次の疑問にあるわけです。どんなふうにして選んでいるんですかというのがあって、読み放題のパック 100冊とかですね、それをするために50冊パックというのがあって、まずはその50冊パックを選んでという、ここだけだったら意味がよくわからなかった。

実際に電子図書館を開けてみたら、いろんな分野で5冊ずつあるんです。例えば、新刊とかよく借りられるランキング5冊とか、旅に出ようとか、お家大好き、主にその収納の本が5冊とか。

稲美町に住む方、全員にぴったりするようになっていのはなかなか難しいんですけど、今子どもさんがいる家庭を何とかうまくやっていきたい。だいたい物がたまってきたので収納を何と

かしたいとか、子ども連れで遠くはいけないけれども、近場の旅行先を探したい。そういう、稲美町に住む20代30代40代ぐらいが、選びやすい形になっています。それは例えば、普通の紙の本を同じように、うちにはこんな本がありますよというのを掲示しようとしたら、それを写真に写さないといけないですし、またコメントも書かないといけない、というものすごい手間が生じる。その手間を電子図書館というのは、わかりやすさ、便利さでよく表れていたというのが、ひしひしと感じたんです。

私は他の市町のところまでなかなか調べることはしませんでした。稲美町の電子図書館を見ただけで、これは良いと思いましたのでここでお話させていただきます。

教育長

次は、(2)「総務福祉文教常任委員会の報告について」を事務局から説明願います。

前田課長 (説明内容省略)

赤松課長 (説明内容省略)

瀧口課長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

ご意見がないようですので、以上で、本日の議事はすべて終了しました。

なお、次回定例教育委員会は、9月28日(木)ですので、よろしく願いいたします。

それでは、これで本日の会議を閉会といたします。

本日は大変お疲れ様でした。ありがとうございました。